

社会科学習指導案（略案）

I 単元名 「世界の人口分布と変化」 (『人口の特色をとらえよう』の6時間中の1時間目)

II 本時の学習

1 目標 : 世界の人口分布や人口増加の仕方に地域的な差異があることや人口増加率に関する傾向を読み取り、その要因を追究することができるようにする。

2 展開

※1：課題解決型ワークシートをWSと表記 ※2：地理的な見方を△、地理的な考え方を◇と表記

学習活動	時間	支援及び留意点	評価※2
<p>1 本単元の学習は「人口面から見た日本の特色」であることを確認し、「自由に住めるとしたらどんな条件のところに住んでみたいか」を考え、書き出す。</p> 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめとして人口にかかわる諸事象に関心をもたせるために、自由な発想をさせる。その際、理由もつけて自分の考えをもたせることにより人口分布の様子に気付かせる。 ・班でKJ法を用いることで、人が集まるところはどんなところか気付かせる。 <p style="text-align: center;">個人記述→班で交流→数班発表</p> <p>その際、ブレインストーミングで柔軟な発想を引き出すようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に住めるとしたらどんな条件のところに住んでみたいかを考え、書き出すことができる。 ・住んでみたい条件を班の中で積極的に表現できる。 【関】(ノート、班活動)
<p>2 複数の資料から世界の人口分布の偏りを読み取り、その背景について考える。 【人口分布に関する課題追究】「なぜ、人口分布に偏りがあるのか」 (WS①、②)</p>	15	<ul style="list-style-type: none"> ・世界人口の分布の特徴を分布図や統計資料から読み取らせる。 ・人口分布図や人口密度図と地形や気候の主題図を実物投影機を使って重ね、自然環境と社会環境の関係に気付かせる。 ・WS②は一斉で行い、基本用語の人口密度をおさえる。 ・日本は世界的に見て人口集中地域であることを確認し、人口分布と人口密度についてまとめる。 	<p>△世界の人口がどこにどのように分布しているかわかる。(WS①ー③)</p> <p>◇人口分布の偏りが見られる要因を自然環境と社会環境に着目して考えられる。(WS①ー④)</p>
<p>3 世界の人口増加の傾向を読み取り地域的な偏りの要因を考える。 【人口増加に関する課題追究】「発展途上国にはなぜ人口増加率が高いところが多いのか」 (WS③)</p>	15	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの1950年から注目させ州ごとに大観させる。WSを使って分類整理する。 → アジア・アフリカに多い → 発展途上国と先進国に分類する ・インドを例に資料から出生率や死亡率、経済状況等について関連させて考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を把握し人口増加率の偏りの要因を発展途上国と先進国に分類整理し追究できる。【思】(WS) △人口増加率の高い地域と低い地域に分類整理できる。(WS③) ◇その要因を発展途上国と先進国に分類整理し、人口増加率の偏りがあるのはなぜか、追究できる。(WS③)
<p>4 本時のまとめをする。 (WS-振り返り) ・自己評価する (自由記述と観点別)</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が付箋に書き記したことに對して次時までには教師が助言を与え、フィードバックし修正点に気付かせたり、学習の励みになるようにしたりする。 	

社会科学習指導案（略案）

I 単元名 「日本の人口の変化と特色」（『人口の特色をとらえよう』の6時間中の2時間目）

II 本時の学習

1 目標 : 人口ピラミッドや統計資料等を使って、他の国々と比較し関連付けながら日本の人口の変化や特徴を理解し、変化からくる問題の要因を探り自分なりの解決策を表現できるようにする。

2 展開

※1：課題解決型ワークシートをWSと表記 ※2：地理的な見方を△、地理的な考え方を◇と表記

学習活動	時間	支援及び留意点	評価※2
1 人口ピラミッドの読み取りの概略を理解する。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が日本の人口構成の変化について興味・関心をもてるようにするために、人口ピラミッドの形に注目させ、コンピュータを使い動きを入れて提示して視覚的にもとらえやすくする。 ・人口ピラミッドの一部のみ空欄にしておいて、そこを作成するにとどめ深入りしない。 ・初めてのグラフなので、実物投影機を使って作業の仕方を説明する。 ・机間支援して、作業の進まない生徒を援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口ピラミッドの簡単な作成ができ、人口ピラミッドの特徴を読み取ることができる。 【技】（練習、プリント）
2 人口ピラミッドの作成の仕方を理解し、その一部を作成する練習をする。 ・練習プリントを活用し、1930年の日本の人口ピラミッドを例に作業する。	15	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集を用いて課題を追究させる。 ・各国の人口ピラミッドを、資料の日本の人口ピラミッドと比較して、共通点や相違点について考えられるようにする。 	
3 ①新旧の日本の人口ピラミッドの形はどこの国（地域）と似ているのか考える。 ②その形の人口ピラミッドがなぜそこでそうなっているかを考える。 【人口構成に関する課題追究】（WS①）	15	<ul style="list-style-type: none"> ・高齡化の原因である少子化は全国的なものなのか、一部の地域だけなのか明らかにするためにワークシートを段階的に活用させる。 ・なぜ少子・高齡化が全国的な問題となっているのかビデオ教材を提示することによって、その深刻さに気付かせる。 ・自分なりの問題解決策を考えやすくするために、出生率を今後どうしたらよいかを理由も付けて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> △富士山型はどこの国（地域）どのような国（地域）で見られるのか分かる。 △釣鐘・つぼ型はどこの国（地域）どのような国（地域）で見られるのか分かる。 ◇なぜそこでそうなっているのか、共通点や相違点について考えられる。 【思】（以上、WS①）
4 ①日本の人口はなぜ高齡化しているのか考える。 ②日本の人口が高齡化していることから生じる問題点と解決策を考える。 【少子・高齡化に伴う課題追究】（WS②）	15	<ul style="list-style-type: none"> △高齡化の原因である少子化は全国的なものなのか、一部の地域だけ見られるのか分かる。 ◇少子化に視点を当てて課題追究を行い、自分なりの解決策を表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> △少子・高齡化は先進国に共通して見られることが分かる。 （WS②）
5 本時のまとめをする。（WS－振り返り） ・自己評価する。（自由記述と観点別）	10	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が付箋に書き記したことに對して次時まで教師が助言を与え、フィードバックし修正点に気付かせたり、学習の励みになるようにしたりする。 	

社会科学習指導案 (略案)

I 単元名 「日本の人口分布」 (『人口の特色をとらえよう』の6時間中の3時間目)

II 本時の学習

- 1 目標 : 人口移動に着目して日本の人口分布の特色をつかみ、過疎と過密化の要因や問題点を明らかにする。
- 2 展開

※1: 課題解決型ワークシートをWSと表記 ※2: 地理的な見方を△、地理的な考え方を◇と表記

学習活動	時間	支援及び留意点	評価※2
1 国内の人口密度が高いところ低いところはどこかの都道府県か考える。 ・予想する。 ・調べる。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしやすいように都市と集落をグーグルアースを使って提示する。 ・予想させることによって本時の学習に対する意欲や関心を高める。 	
2 日本的人口ほどの地域に多く分布しているか。また、少ない地域はどこか。地形との関連で考える。 【人口分布に関する課題追究】(WS①)	20	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳の地形図と人口分布図を関連させて考えさせる。 ・人口分布図と地形図をコンピュータを使って重ね、都道府県をより広い地域の中で考えさせるために何平野に人口が多いか補助発問を行う。 ・平野部と山間部に着目させ人口分布は自然環境だけでなく、社会環境にも要因があることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口分布図の読み取りを通して、日本全体を大観し、人口分布の特色を明らかにしている。 【知】(WS①) △日本全体を大観し、日本の人口がどこに、どのように分布しているか分かる。(WS①) ◇その要因を自然環境と社会環境に着目して考えられる。(WS①)
3 国内の人口移動にはどのような特徴があるのか考える。 【人口移動に関する課題追究】(WS①)		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の複数の資料を参考に高度経済成長期に農村地域から都市地域へ大量の人口が移動したことに気付かせる。 ・東京・大阪・名古屋圏や地方中心都市では人口流入が続いていることをコンピュータを使って視覚的にとらえやすいようにする。 	◇人口移動は関東以外の大都市圏でも見られることが分かる。(WS①)
4 過疎・過密及びそれに伴う問題について考える。(WS②) ・どんな条件のところに住んでみたいか考える。	15	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな条件のところに住んでみたいか考えることによって、多くの人々が都市部へ移動傾向にあることに気付かせる。 ・過密・過疎地域が抱える問題点を明らかにしておき、それを次時以降の学習課題とする。具体的な問題解決への取組は深入りしないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口問題である過疎・過密地域の問題点をあげ、どんな条件の場所に住みたいかを考えることができる。 【関】(WS②)
5 本時のまとめをする。(WS-振り返り) ・自己評価する。(自由記述と観点別)	10	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が付箋に書き記したことに對して次時までには教師が助言を与え、フィードバックし修正点に気付かせたり、学習の励みになるようにしたりする。 	

社会科学習指導案（略案）

I 単元名 「人口が過密な地域の生活」 （『人口の特色をとらえよう』の6時間中の4時間目）

II 本時の学習

1 目標 : 横浜市の人口が増加してきた背景と、人口増加に伴う問題点を把握し、過密解消への自分なりの考えをもち、横浜市の取組とその効果を考察する。

2 展開

※1：課題解決型ワークシートをWSと表記 ※2：地理的な見方を△、地理的な考え方を◇と表記

学習活動	時間	支援及び留意点	評価※2
1 「横浜市の人口はなぜ過密なのか」という課題を仮説をたてて予想する。 ・「横浜市の人口はなぜこれほど過密なのだろう」という発問に答える。 ・横浜市の人口密度は全国平均の何倍かを計算する。	5	・横浜市が過密地域である様子が分かる資料を提示し、人口急増の様子をイメージさせて、予想できるようにする。 ・横浜市の人口密度は全国平均の何倍かを計算させて教室内の人数におきかえて実感させ、人口密度の高さを理解できるようにする。 ・地図帳以外の資料は見ないで考えさせる。	
2 課題追究する。 【人口増加の背景に関する課題追究】 (WS①)	15	・グーグルアースを使って、地形面から自然的要因と関連させて考えられるようにしてから始める。 ・ワークシートを使って段階的に考えられるようにして課題追究させる。 ・既習事項から、社会的要因・他地域とのつながりも関連させて考えられるようにする。	△横浜市の人口がどこにどのように分布しているか分かる。(WS①) ◇その要因を自然環境と社会環境に着目して考えられる。(WS①)【思】
3 横浜市人口急増に伴う問題点と過密解消への取組を考える。 (WS②) ・問題点をあげる ・問題点の共通理解をする。 ・自分ならどんな提案をするか考える。	20	・WS②の①を解答させた後、問題点をあげさせ、それを共有化し共通理解させる。 ・WS②の②は自分の身近な問題に近づけるために「自分が市長だったら」もしくは「自分がこども議員に選ばれたら」どんな提案をするか考えさせる。 ・教科書資料「過密解消に取り組む市役所の人の話」ほかを読み、現在の横浜市での取組と効果についても考えさせる。	・横浜市長になったつもりで人口急増に伴う問題点を挙げ、過密解消への対策を考え、書くことができる。【技】(WS②) ◇地域的特色を一般共通性の視点からとらえ、他の地域にも同様な場所があることが分かる。(WS②)
4 本時のまとめをする。 (WS-振り返り) ・自己評価する。 (自由記述と観点別) ・相互評価する。(班で交流)	10	・生徒が付箋に書き記したことに對して次時までには教師が助言を与え、フィードバックし修正点に気付かせたり、学習の励みになるようにしたりする。	

社会科学習指導案（略案）

I 単元名 「過疎地域の生活」 (『人口の特色をとらえよう』の6時間中の5時間目)

II 本時の学習

1 目標 : 上野村の人口が減少し続けてきた背景と、人口減少に伴う問題点を把握し、問題解決への自分なりの考えをもち、上野村の取組とその効果を考察する。

2 展開

※1: 課題解決型ワークシートをWSと表記 ※2: 地理的な見方を△、地理的な考え方を◇と表記

学習活動	時間	支援及び留意点	評価※2
1 「上野村の人口はなぜ減少していったのか」という課題を仮説をたてて予想する。	5	<ul style="list-style-type: none"> 人口の変化を示したグラフを予想させながら5年ごとにコンピュータで提示することにより、本時の学習課題に興味をもたせる。 上野村の資料を配付し、上野村の特徴を大まかにとらえさせてから予想させる。 上野村の人口密度と横浜市、全国平均とを比較させ、上野村の人口の特徴をよりとらえやすくする。 	
2 課題追究する。 【人口減少の背景に関する課題追究】(WS①)	15	<ul style="list-style-type: none"> グーグルアースを使って、地形面から自然的要因と関連させて考えられるようにする。 ワークシートを使って段階的に考えられるようにして課題追究できるようにする。 グラフから、「なぜ2000年に一時的に人口が増えたのか」の補助発問を行うことにより、社会的要因・他地域との関係について関連付けて考えられるようにする。 WS②の①を行った後、問題点をあげさせ、それを共有化し共通理解できるようにする。 WS②の②は自分の身近な問題に近づくために「自分が村長だったら」とし、自分の考えをもてない生徒に「自分が住んでみたくなる村には何があり、どんな制度があり、だから住みやすい・楽しい」という補助発問をし、考えやすくする。 	<p>△上野村の人口がどこにどのように分布しているか分かる。(WS①)</p> <p>◇その要因を自然環境と社会環境に着目して考えられる。(WS①)【思】</p>
3 上野村の人口が減少し続けていることに伴う問題点と過疎解消への取組を考える。 (WS②)	20	<ul style="list-style-type: none"> 問題点をあげる 問題点の共通理解をする。 村長になったつもりで過疎を解消する政策を考え、書き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 上野村長になったつもりで人口減少に伴う問題点を挙げ、過疎解消への対策を考え、書くことができる。【技】(WS②)
4 本時のまとめをする。 (WS一振り返り)	10	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の旧西祖谷山村と比較し関連付けて考え、全国にも似た条件のところで過疎化していることが大観できるようにする。 生徒が付箋に書き記したことに對して次時まで教師が助言を与え、フィードバックし修正点に気付かせたり、学習の励みになるようにしたりする。 	<p>◇地域的特色を一般共通性の視点からとらえ、他の地域にも同様な場所があることが分かる。 (WS②)</p>



社会科学習指導案（略案）

I 単元名 「日本の人口の特色を大まかにとらえよう」
 (『人口の特色をとらえよう』の6時間中の6時間目)

II 本時の学習

1 目標 : 単元全体を「地理日記」にまとめて振り返り、日本の人口の特色という地理的事象を位置や空間的な広がりとかかわりにとらえ、その背景や要因を探る学習についての客観テストや自己評価を行う。

2 展開

※1：課題解決型ワークシートをWSと表記 ※2：地理的な見方を△、地理的な考え方を◇と表記

学習活動	時間	支援及び留意点	評価※2
1 人口面に視点を当てて日本の特色と課題をまとめる。	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTに生徒のまとめを読んでいただくようお願いし、日本の人口の特色を世界的な視野からまとめようとする学習意欲につなげる。 ・まとめやすいように、「世界的に見て」「日本全体から見て」に分けてワークシートにまとめ、わが国の地理的認識を深められるようにする。 ・課題についてのまとめを2つ提示しておくことにより自分の言葉で表現しやすいようにする。 	
2 地理日記を完成する。 ①単元学習前と同じ設問に答える。(裏面) ②課題解決型ワークシートの自由記述欄(付箋)を指定の場所に添付する。 ③課題解決型ワークシートの見方や考え方に関する自己評価を指定の場所に転記する。 ④地理日記の点線部に切り込みを入れ、その部分を折り返し、単元学習前・後の自分を比較する。 ⑤単元全体の学習をまとめて地理日記の中心部に書く。	15	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体を時系列で振り返らせることで、自らの思考の変化や深まりが実感できるようにする。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元学習のはじめの発問と同じ発問を行い、学習前と学習後の比較をすることにより学習の成果を実感させる。 	△◇世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させるとともに「地理日記」を通して日本の人口に関する課題や解決策を振り返って日本の人口の特色を大観することができる。 【知】【思】【関】
3 客観テストに取り組む	15	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的な見方や考え方の視点「どこにどのように」「それはなぜ」等を確認し、この単元での学習を思いおこせるようにしてから取り組ませる。 	△◇客観テストのそれぞれの設問に正しく答えられる。
4 まとめをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の前向きな記述を紹介して本単元の学習を総括することで、地理的な見方や考え方を高めるために、様々な視点をもつことや、学習の継続の大切さが理解できるようにする。 	